

# ワークショップ

- 1 日時 平成30年5月28日(月)午後2時30分～4時00分
- 2 場所 5階講堂 (B1・B2・B3・B4・Cグループ)  
5階502号会議室 (A1・A2グループ)  
3階301号会議室 (A3グループ)
- 3 テーマ A:水質保全・生態系保全 29名  
B:湖辺面活用・まちづくり 36名  
C:調査研究・学びの推進 10名
- 4 参加者 A1グループ 10名 B1グループ 10名 Cグループ 10名  
A2グループ 10名 B2グループ 9名  
A3グループ 9名 B3グループ 8名  
B4グループ 9名 計 75名

☆20年後の諏訪湖が、目指す姿となるために、ビジョンにある具体的な取組について、私たちに今からできること(自分自身が取り組みたいこと、協力参加できること等)や、取組の効果をより高めるためのアイデアはありますか？

## テーマA：水質保全・生態系保全の具体的な取組

- 漂着ごみの除去、河川へのごみの流入防止
- ヒシの除去や除去したヒシの活用
- 豊かな動植物を育むための環境づくり(外来動植物の除去、エコトーンの復活等)

## テーマB：湖辺面活用・まちづくりの具体的な取組

- 常にゴミのない諏訪湖を目指した取組等の検討
- 楽しくサイクリングできる環境づくり
- 水辺カフェ、にぎわいのある施設等、河川空間の有効活用
- 芸術・文化施設との連携(全国でも稀な美術館・博物館の集積地)

## テーマC：調査研究・学びの推進の具体的な取組

- 文化・水環境保全等をテーマにした「案内人ボランティア」の育成
- 水環境保全等に対する住民意識向上のための「諏訪湖の日」の制定の検討
- 効果的な環境教育の手法の検討

## A 1 グループ〔水質保全・生態系保全〕



### ■ゴミのない、魚が多く採れる諏訪湖にするために

#### ◎上流域

- ・ゴミは上流から湖へ
- ・上流からのゴミをなくす
- ・流入河川における清掃等
- ・流入河川のゴミ（草地）管理
- ・上流の人も湖岸の清掃に参加
- ・各河川の情報共有

#### ◎ゴミ拾い

- ・恒常的なゴミ拾い活動
- ・自治会でのゴミ拾い回数を増やす
- ・諏訪湖の一斉ゴミ拾いの日を設ける（諏訪地区）
- ・継続した活動
- ・清掃活動への参加とそれに対する意識付け
- ・ゴミ拾いが楽しくできる方法
- ・魚の死骸を早急に片付けるしくみ作り
- ・第1に目につくゴミ、第2に見えないゴミ処理

#### ◎ゴミ箱など

- ・自動販売機にゴミ箱設置。管理を義務付ける（風で飛ばないように）
- ・ゴミ箱をもっと多く設置する
- ・観光シーズンだけでもゴミ箱を設置する
- ・不法投棄多発場所に子供たちが拾っていることの写真を掲示する
- ・レジ袋削減運動をもっと活発化

#### ◎制度

- ・ペットボトルのデポジット制を導入する
- ・発生元への啓発 ※メーカー等含む
- ・ポイ捨て禁止条例（河川に限らず）
- ・空き缶、ペットボトル、たばこの吸い殻の投げ捨て禁止条例

#### ◎マイクロプラスチック

- ・マイクロプラスチックの影響啓発
- ・マイクロプラスチックは魚に被害あり
- ・ワカサギのおなかからマイクロプラスチックが出てこないように

◎環境教育

- ・実体験を通じた環境学習
- ・何が問題なのかを伝える
- ・世界の海につながっていることを理解する
- ・学校教育での環境教育が必要
- ・下水道が完備したことで、何でも流せばいいと思っていないか
- ・学習を通じた問題意識の向上

◎大人も

- ・子ども、大人も環境教育の強化
- ・大人の環境教育も必要
- ・大人の学習意識を強める

◎発表の場

- ・活動したら発表の場を
- ・広報活動による問題の周知
- ・アダプトプログラム成果は？

■魚の多く採れる諏訪湖にするために

◎湖内護岸の整備

- ・遠浅を戻して欲しい
- ・諏訪湖内に魚が多くいるエリアを設ける
- ・水辺を多くする
- ・魚の住みやすい水辺必要
- ・以前の諏訪湖はクイがあり、そこにツブ等がびっしりあった。遠浅で遊び場にもなった。
- ・湖周の矢板を撤去し湖岸整備（部分的に）
- ・ヘド口の除去
- ・しゅんせつ再開

◎産卵場所

- ・魚の住める、卵が産める場所をつくる
- ・ヒシは当面、現在の方法で
- ・湖周にエコトーン（ミニ洪のエゴ）を多く設置する

◎外来魚

- ・外来魚は駆除
- ・外来魚が食材として活用できる様にならないか

◎調査研究

- ・魚が住みやすい水質の研究
- ・魚の生態を知る、伝える
- ・魚が多くなるには何が必要か
- ・6月7月の出水期に各河川から流れ出るヨシのゴミも産卵場所になる

## A 2 グループ [水質保全・生態系保全]



### ■漂着ごみの除去、河川へのごみの流入防止

#### ◎発生抑制

- ・ゴミの発生抑制
- ・諏訪湖だけでなく上流域も含めた対策を
- ・流域内でのゴミルールづくり、ステーション管理
- ・ものを大切にする心を育てる⇒発生抑制
- ・自然由来のゴミ以外の人工ゴミの抑制（レジ袋、ペットボトルの削減）
- ・街中にごみ箱を増やす。ゴミ収集のルートに乗せやすくする。
- ・ビニール等資材の改良、新素材の評価と積極導入

#### ◎実践

- ・ゴミ拾い、ヒシ除去などの継続
- ・ゴミが溜まりやすい場所MAP⇒清掃
- ・毎日のゴミ集め
- ・家、学校、職場周辺の片付け、ゴミ拾い
- ・死んだ魚などゴミを拾いやすくするためのシステム（仕組み）を検討する場づくり

#### ◎環境教育

- ・環境ピクニック
- ・ゴミ拾いなど（湖周辺）⇒同時に地元意識向上につなげる
- ・団体における周知（団体メンバーの参加呼びかけ）
- ・大人への教育。ゴミ、外来種がなぜダメなのか。

### ■豊かな動植物を育むための環境づくり

#### ◎水草

- ・ヒシの刈取り
- ・ヒシ取りは一般の人でもやった方がいい
- ・貝（シジミ、タニシ）による水質向上
- ・水草（エゴなど）による水質向上⇒元に戻す
- ・コウホネ、マコモ等を植生する

#### ◎現状把握

- ・望ましくない姿を放っておくと・・・

- ・湖岸から湖心への環境づくり
- ・環境の変遷⇔施策との対応 何をしたらどうなったかを整理
- ・湖底等見えない所の現状を明らかにする
- ・人工なぎさ等どこまで人間の手を入れるのか？当初は人工的に。

#### ◎水の流れ

- ・河川の流れを維持
- ・農業排水対策、農薬の改良
- ・湖内の水の流れ⇒水草が阻害？地形が関係？
- ・伐採による水質浄化機能麻痺
- ・流入汚濁よりも堆積した汚濁除去
- ・自然の力で諏訪湖を再生。人はきっかけを作ってやる。

#### ◎豊かな動植物

- ・在来植物の種、苗を提供できます。(少しですが) 外来植物を抜いた後、在来種に置き換えないとまた増える。
- ・植林はなるべく広葉樹にする。針葉樹のときは花粉の少ないヒノキ、スギ苗を選ぶ。
- ・公園や公の施設で、野鳥のエサになる、いわゆる「雑草」も生やす。例えば、ススキ、ヨモギ
- ・トンボ池に休耕田を貸してくれる地主を募集する⇒有志のトンボ池プロジェクトを作る。
- ・園芸店でも園芸品種だけでなく在来種の種、苗を売る努力を！PRする。
- ・ビオトープ（トンボ池）をつくる。(トンボ、ヒメボタル、カエル、ミズカマキリなど豊かな生態系を！)
- ・公園、公共施設の構内は、在来植物を(帰化植物、園芸品種を少なくして)増やす。それによって、チョウ、昆虫の種類も多くなる。
- ・里山整備
- ・外来動植物の啓発(ブラックバス、ブルーギル)  
オオキンケイギクはきれいだけれど・・・
- ・外来植物の除去(オオハンゴンソウ、ヒメジョオン) 舟がなくても誰でもできる。
- ・外来植物等気づいたら抜き取りできる環境を！
- ・外来魚駆除の抜本的対策がないけれど、個体数を抑制する努力の継続

#### ◎環境教育

- ・諏訪湖活用イベント⇒諏訪湖は大切
- ・小中学校の教育、河川清掃の拡大
- ・昔の諏訪湖の姿を明確化し、改善方向をアドバイスしていく。
- ・楽しくやる方法が考えられないか。若者、旅行者参加のイベント
- ・諏訪湖の恩恵を考える
- ・水切り(石投げ!!)大会
- ・下流を思いやる環境教育
- ・諏訪湖の状況を身近に感じていただく教育。してはいけないことを教育する。

## A3グループ〔水質保全・生態系保全〕



### ■漂着ごみの除去、河川へのごみの流入防止

#### ◎現状把握、分析

- ・ごみの分析（量、種類）＋湖底も？
- ・ペットボトルなどは少ない
- ・自然が出したゴミはどうする
- ・ゴミの量は減っているが・・・
- ・波でゴミが行ったり来たり、風向きにより岡谷が少なく、諏訪市が多い

#### ◎教育・開発・法整備

- ・発生削減（素材の変更、ゴミ袋⇒生分解）
- ・ゴミを捨てさせない対策、モラル教育
- ・車からのポイ捨て、不法投棄をなくしたい
- ・人がいやがる上流からのゴミを防ぐ
- ・河川へのゴミ捨て禁止条例等
- ・アシ、ヨシの野焼きでもゴミが出る
- ・マイクロプラスチックの元にならないようプラスチックを散乱させない

#### ◎対策

- ・ネットを張る
- ・ゴミネットの再開
- ・お金の問題でネットを修理できない
- ・除去対策、除去したゴミの処理を誰がどうするか
- ・拾い集めたゴミの処理をシステム化する（ステーションなど）
- ・水面や湖辺にゴミがなく、美しい景観を保つ。」
- ・重点化する地域を決める

### ■豊かな動植物を育むための環境づくり

#### ◎まず現状の把握

- ・動植物調査：現状で何が生息生育しているのか
- ・他の湖沼における取組事例の収集
- ・水草を含む植生の分析調査（文献調査）
- ・動植物の調査

- ・そもそも昔はどうなっていたのか？⇒昔からどう変わったのか。
- ・水質とは？透明度？キレイにすればいい？
- ・キレイな水では生き物が育たない
- ・今年フナが遡上なし。(例年は数万匹遡上している)
- ・生態系が変わった。釣の状況も変わった。

#### ◎河川の整備

- ・流入河川の整備
- ・湖面の水の流れ対策
- ・流入・流出河川も含めて一体的に考える(流域)
- ・川の底をきれいに。ドブに生える蓮が・・・
- ・河川の水草を誰が刈るか
- ・雨水などの流入。湖の自浄作用がない。

#### ◎環境づくり

- ・場所によって土壌(湖底)に変化をつける。ガラスの砂など
- ・鳥類のエリアを考慮した湖岸の整備
- ・釜口水門で水の流れが変わり砂利が溜まる
- ・諏訪湖全体では豊かな動植物を育むエリアが少ないのでは？
- ・水辺整備のゾーニングには人工の目的が多い(動植物の観点からのゾーニングが少ない)
- ・隠れ場所、陰をつくる(漁礁)
- ・昔あった岸辺(石積み、蛇籠、ヤブ)の再生
- ・様々な大きさの穴(魚の隠れ家)
- ・湖岸の形を複雑にする
- ・岸幅を広くする(移行帯⇒広くエコトーン)
- ・生物がいないと水質に影響がある

## B1グループ〔湖辺面活用・まちづくり〕



### ■楽しくサイクリングできる環境づくり

#### ◎手法(ハード)

- ・変化に富んだコース作り、目的別のコース作り
- ・自転車には諏訪湖の周りだけでは短いので、山間部との連携

- ・休憩所、修理の施設
- ・自転車専用道路の早期実現
- ・休憩場所の充実
- ・規制緩和（道路、施設、ルールなど）
- ・水上を走れるような道路作り
- ・諏訪湖一周の統一感 例）標識等

#### ◎手法（ソフト）

- ・小口良平氏（岡谷市）世界一周し、サイクリングを事業化している人に意見を聞く
- ・レンタサイクル、スタンドにスポンサーをつける。（広告、ログアプリ等）
- ・砂浜の整備により、オフロード自転車の導入
- ・諏訪郡でネットワークを作り、サイクリングコミュニティに意見を求める。
- ・コアセンターをつくり、人を集める

#### ◎目的（安心・安全）

- ・安全性のため、警備員等、案内人等、救護者等担当職員の常駐ポイントをつくる
- ・年代を問わず、安心・安全に利用でき、健康増進に繋がる
- ・将来の自転車道・・・電動車いす、電動キックボードが利用できる
- ・休憩する場所づくり
- ・車、自転車、ランニング・ウォーキングに分け、それぞれに安心な整備
- ・3～4ヶ所お休みポイントの設置

#### ◎目的（環境）

- ・無人レンタサイクルスタンドで、借りる、返すが自由に
- ・サイクリングで思い切りスピードの出せるゾーン
- ・レンタル自転車の充実
- ・高度なレベルでなく、家族で乗れる自転車道!!

#### ◎目的（観光）

- ・諏訪湖を見ながら自転車に乗れる信大センターの対岸に水辺カフェ（サイクリングとカヌーの立寄り場所）
- ・名所をめぐるコースづくり
- ・なぜ・・・？サイクリングできる環境が必要か明確にする。  
顧客は？ターゲットは？健康？
- ・サイクリング時の景観スポットがほしい。（白鳥、富士山、噴水、八ヶ岳）

### ■水辺カフェ、賑わいのある施設、河川空間の有効活用

- ・また行きたい、また来たいと思うカフェ、施設
- ・親水の砂浜でバーベキュー
- ・水の近くまで行ける空間
- ・水辺にテラスやデッキ
- ・水辺にオープンなコンビニ
- ・昼外テーブルがあるような水辺カフェ
- ・諏訪、長野の名産を取り扱う店舗を湖周に配置
- ・アルコール提供型 C a f e



- ・水辺カフェ設置に向けた推進体制の整備
- ・緑地公園法を無くし、飲食店を湖周に!!
- ・川の整備、諏訪湖のド口を無くする。
- ・間欠泉センターの活用、観光案内所等の併設
- ・間欠泉センターのコミュニティ化
- ・移住者の為の（希望）情報センター
- ・世代別にあわせた交流ポイント（子供の遊び場、ヨガ、シニア散歩）
- ・イベントスペース的な施設⇒イベント誘致⇒集客
- ・諏訪湖大橋、諏訪湖ステージ
- ・美術館に有名人のオブジェ⇒1部を環境整備に
- ・外国語の案内、観光案内所、ハブ
- ・産業、地元食材×クリエイターによる農家のPR。観光客と交流
- ・銀座NAGANO、諏訪湖バージョン（2ヶ所）
- ・諏訪湖一斉清掃のバトンリレー（回数を分けて何回も）
- ・河川を通じての下社、上社めぐりができないか。
- ・山の上から諏訪湖へ、カヤック・カヌーで下りてくる。そこから天竜川を下って太平洋へ
- ・諏訪中学の横の川は、水草を刈ればカヤックで溯れる。
- ・上川の途中にも、川底の薄くなる段差があるのでなくしたい。
- ・衣ノ渡川の橋の下で舟の通れないところがあるので、通れるようにしたい。（川底がコンクリートの段差あり）

## B2グループ〔湖辺面活用・まちづくり〕



### ■常にゴミのない諏訪湖

- ・死んだ魚をすぐ片付ける仕組みづくり
- ・宿泊施設はゴミ拾いに参加したら一品追加など
- ・一斉清掃で参加者にお買い物ポイント付加
- ・ゴミ収集でポイントが集まる（観光客が）
- ・諏訪湖の日を作る。（湖周で市民参加の清掃の日とする）
- ・県外の方への諏訪湖のゴミを減らす活動の発信
- ・川の掃除

- ・子供川柳 etc.

### ■賑わいのある施設

- ・初島まで橋をかけて神社（恋に関連した）を作る。
- ・諏訪湖の案内ができる場所があったら良い
- ・訪日外国人への多言語案内、サインの設置
- ・駐車場を作る
- ・湖畔に人が集まるように、駐車場の充実、新設、増設を図る。

### ■楽しくサイクリング

- ・通勤サイクリングキャンペーン
- ・自転車置き場設置補助
- ・レンタサイクリングの充実
- ・湖周サイクリングロードに繋がる坂道を利用したコース設定⇒サイクリングできる坂道の提案
- ・サイクリングの電灯を防犯に生かしつつ、諏訪湖夜景づくりに生かす。（諏訪湖宝石箱プラン）
- ・湖周の樹木をオーナー制にしてライトアップの夜景サイクルロードへ（夜キラキラサイクルロード）
- ・サイクリングは子供も含めて楽しめる事に重点をおく。
- ・サイクリングでの道祖神めぐり
- ・街中サイクリング。せまい路地を回る。ガイド案内
- ・モデルコース（サイクリング）の紹介
- ・ガイドサイクリングの商品化
- ・トイレ地図の作成
- ・ロードレース大会の実施
- ・トライアスロン大会の実施

### ■水辺カフェ

- ・オープンカフェレストラン
- ・クルージング
- ・水辺カフェ、レストラン、賑わい施設の開設による湖畔の活性化（規制の撤廃、自由化）
- ・サイクリングしながら気軽に水に親しめ、休み、語らう施設、空間、緑地、木陰⇒オープンカフェ

### ■その他

- ・ゆったり、のんびりをコンセプトにした整備、文化の普及
- ・ナイトミュージアム：博物館に泊まって作品の説明を聞く
- ・花火とナイトサイクリングのコラボ
- ・花火を利用した誘客



### ■ 諏訪湖の日に人が集まる

#### ◎ イベント

- ・ イベント会場
- ・ アクティビリティ（ルール）
- ・ 諏訪湖でできるアクティビティを増やす
- ・ 足漕ぎボートで諏訪湖一周。あひるボートでカロリー消費の計算
- ・ 健康器具を使ったイベント（若い人が集まる）
- ・ 近くに上諏訪温泉があるので湖と温泉のコラボはできないか。
- ・ マリンスポーツが自由にできる場所。ボートだけでなくトライアスロンができればよい。
- ・ 諏訪湖の日イベントで、手をつないで諏訪湖一周
- ・ お金を出す人がいるのでどんどん活用させて
- ・ ゴミ拾い大会。スポーツ祭の一部にしてもおもしろいかも

#### ◎ ヒシ

- ・ ヒシ・クロモの活用方法の開発
- ・ ヒシ取り合戦

#### ◎ 整備

- ・ ヘド口の全面除去をしてほしい
- ・ 湖岸整備を自由にさせてほしい
- ・ 人工渚を活用したい
- ・ 砂浜が広がり子供達が集まる諏訪湖
- ・ 澄み切った湖、高原の静かな憩いの場

#### ◎ おもてなし

- ・ 市民や観光関係者（従業員）のおもてなし力の向上
- ・ カヌー、サイクリング愛好者等と、飲食店、旅館等との連携
- ・ 湖周イメージの統合感（多様）諏訪湖って？（目指す・・・）
- ・ 施設は市町ごとにある。駐車場、活動エリア

#### ◎ 観光

- ・ 舟通しが活用されていない
- ・ カフェに有名人所有の船を係留する
- ・ 諏訪湖の水（飲める）をあえて売る企画

- ・学べるカフェを作る！
- ・表面的には水はキレイになっているが・・・
- ・活用されていない桟橋を直しカフェに
- ・諏訪圏の食べ物、野菜などで作ったカフェ。シニアなど働く姿が売りになる。

◎文化

- ・神話、歴史、北斎
- ・諏訪湖写生大会の開催
- ・ドローン技術の活用（VR技術）
- ・1年中御神渡を見ることができる

◎その他

- ・食のイベント開催
- ・駅から諏訪湖までの道にカフェ、飲食店を増やす。開店支援

## B4グループ〔湖辺面活用・まちづくり〕



### ■水辺カフェ、賑わいのある施設等河川空間の有効活用

◎水辺カフェ

- ・河川空間のオープン化どうやったらできる？をワーキンググループ等で勉強する。（できること）
- ・屋形船（わかさぎ船、冬のドーム船）⇒カフェ
- ・「レイクサイド屋台」夜の部 食・音楽・遊（福岡をイメージ）
- ・陸に上がってくつろげるカフェ・・・。木製の階段堤
- ・スポーツを楽しみながら利用できるスペース（カフェ）
- ・カフェメニューに源湯で作った温泉卵
- ・ジョギング、サイクリング時の「湖周カフェ」「水辺カフェ」

◎賑わいのある施設等

- ・国際的な大会が開催できる会場づくり
- ・諏訪湖を中心としたトライアスロン大会の開催
- ・水辺アクティビティ
- ・茅野市、富士見町を回る諏訪駅伝大会の創設
- ・ジョギングロードの整備（看板） 諏訪湖ラン
- ・皆が今ある施設を知る（効果を高める）

- ・湖周「ぐるりんバス」⇒駅をつなぐ
- ・「諏訪湖の日」近辺に諏訪地域住民サービスデー（割引とか）
- ・ハード整備
- ◎河川空間の有効活用
  - ・街なかの河川をカヌー又はカヤックで楽しむ（親水、水辺に親しむ）
  - ・スポーツフィッシングの解禁
  - ・橋落下時の舟での交通網（水上） 地震、緊急時
  - ・車を通さない
- ◎広報、広域化
  - ・水面に近いところで生態系を学ぶ水上教室
  - ・（湖面活用の障害となる）ヒシ等の水草の除去
  - ・小・中学生を対象とした湖上セミナー開催
  - ・アクティビティの窓口の一元化
  - ・ヒシのリサイクルシステム確立
  - ・地元が楽しむ
  - ・若者、住民の意識向上
  - ・流域で考える

## Cグループ〔調査研究・学びの推進〕



### ■子供達に何を学んでいただきたいか。

- ◎上流との関わり
  - ・上流の人たちのできるこ
  - ・上流と諏訪湖を繋げる学び  
例えば、ヒシの刈取り⇒堆肥作り⇒田畑で使う⇒野菜作り 適正な肥料の量で
  - ・自分達の生活が諏訪湖の水質にどのような影響を与えているか
  - ・諏訪湖端でキャンプ（グランピング）をしながら、ウォーキング、サイクリングをしたり、水質検査、水鳥、水生昆虫などの観察をしながら、諏訪湖について学ぶ様な機会を子供のうちから持つ
- ・御神渡
- ・釜口水門
- ・流入、流出河川
- ・ビクタセンター

- ・諏訪湖検定
- ・漁協
- ・諏訪湖アートリング
- ・上流から下流を学んでみる
- ・とんぼりクルーズ⇐楽しい 歴史、水 大阪のおばちゃんがインストラクター

#### ◎歴史

- ・〈学び〉浮城「高島城」のひみつ  
〈手法〉高島城築城の歴史と経過の話
- ・〈学び〉諏訪湖の見え方、景観の変遷  
黒いけむり、白いけむり
- ・〈手法〉[物や写真で照会]  
諏訪湖の周りに住んだ人達の痕跡  
諏訪湖の生活（遺跡調査結果から）
- ・〈学び〉諏訪湖の大きかったとき、小さかったとき、その時人々は・・・
- ・諏訪湖と人々との関わり
- ・諏訪湖に近い遺跡と遠い遺跡⇒道具の内容は違ったか（生活上の互換性）
- ・諏訪湖との関わり方の道具の変遷（知恵と工夫の軌跡）
- ・弁天島のできた経緯
- ・積雪、無風でとても寒い日がある
- ・縄文の旅 曾根遺跡
- ・親（先祖）が、自分と諏訪との関わりについて語り、共有する機会  
（オーラルヒストリー）
- ・諏訪湖の歴史
- ・民話、伝承
- ・歴史、文化

#### ◎生態系

- ・自分たちの生活と諏訪湖の環境保全とのつながり
- ・昔の諏訪湖の水環境のすばらしさ（エゴ等）⇒県や民間の環境改善の事業、取組の中に、市民や子供たちに参画してもらい協働で湖岸再生を行う
- ・自然を取り戻す。諏訪湖がなぜこわれたか。
- ・なぜ貝が少なくなった
- ・クロモは害か？
- ・今の生物と昔の生物（今と昔の異同と理由）
- ・生態系
- ・生物
- ・地質学的特徴
- ・子ども達に教える立場の先生方の知識に個人差がある
- ・教えたい、学ばせたいと思う方と教え方を知らない先生方を結びつけるコミュニティスクールのような仕組みができれば良い。

次回以降、皆さん方が意見交換等を行うにあたり、どのような形なら参加したいですか？

- ・一杯まじえて
- ・コーヒーを飲みながら気軽に意見を出せる場所で
- ・TVカメラが入らないように！
- ・諏訪湖畔でビールでも飲みながら！！
- ・ボートや台船で会議
- ・小グループで開催
- ・くらすわ ビアガーデン
- ・華乃井の3F（諏訪湖を眺めながら）
- ・釜口水門で夕陽を眺めながら
- ・あひる ナイトクルージング
- ・会場ですが 諏訪湖の見える 釜口水門管理棟、下水道処理場、諏訪湖博物館などで行い、ついでに施設の説明を受けると有意義な会になる気がします。私の知っている範囲では釜口水門、下水道処理場では80人くらいは可能かと思います。